

問い7 自分だけが幸せでよいのでしょうか。

連研中央講師・高岡教区
城野 至界

私は幸せを求めて生きています。幸せになるのが人生最大の目的と言っても過言ではないでしょう。

ではその幸せとは何か。具体的に表すのは難しいと思われます。人によって幸せの内容はさまざまです。人が幸せを感じるのは、欲しい物が手に入るという物理的なもの、思いが遂げられるという精神的なものの2つがその代表的なものですが、そのほか美しい自然に出合ったり、素晴らしい芸術に出合ったりしたとき、また、好きな音楽を聴いたときも幸せを感じます。私たちは大なり小なり、生活の中でさまざまな事象に合い、人生に幸せを感じています。

一方、人生は四苦八苦だとお釈迦さまは説かれました。私たちは今まで何度も辛い思い、悲しい思いを経験してきました。人生バラ色という言葉もあるのですが、やはり人生は苦しみのほうが多いような気がします。だからこそ、私は幸せを求めて生きているのかもしれない。

私は幸せになりたい。不幸になりたくない。と、常に考えています。そのために勉強し、必死に働きお金を稼ぎ、健康に気を付け、懸命に努力します。そしてその努力に見合う幸せを求めます。幸せが舞い込んだときは喜びますが、懸命にがんばっても不幸に見舞われることもあります。人生の厳しさを痛感します。そんなときは自分の人生の運不運を嘆いてしまいます。

子どもの時はさほど考えませんが、大人になり、ある程度の年齢になると周りの状況、他人の人生を客観的に観察し、自分が幸せか不幸なのか考えることがあります。経済的に裕福な人を見れば羨ましいと思いますし、反対に、不幸な人を見れば、自分になったらどうしよう、ああならなくてよかったなど、勝手に安堵してしまうことがあります。やはり人生は四苦八苦であり、それを何度も乗り越えた私は実際に体験していなくても、他人の幸せと苦を想像することができます。そして自分の状況と照らし合わせて、自分が幸せか、不幸かを常に確認しているように思います。

今、自宅にいながら世界の出来事、情報が一早く手に入ります。戦争、災害などの現実の苦悩を目の当たりにすることが多い現代社会。私はテレビや新聞で悲しい出来事に出遭うと「このままではよくない」と思い、気を揉みます。自分が今置かれている状況が幸せならよけいに現実の苦をどうすることもできない

自分を悔やんだり責めたりしてしまいます。

そんな中「自分だけが幸せでよいのでしょうか」という問いを考えてみたいと思います。

この問いを考えたとき、真っ先に浮かぶのは異常気象による災害で被災したかたがたではないでしょうか。台風シーズンになりますと、テレビで災害のニュースなどを見たとき、被災されたかたがたへの共感、同情、いろいろな思いが交錯します。そしてそれは、自宅で安全に過ごす私が大変な思いをされているかたがたを見て抱く素直な心情ではないかと思います。

例えば、結婚式を控えた人がいました。彼らの住む地域が豪雨災害に遭いました。式の日がちが近づくにつれて「こんな状況で私たちだけが幸せになっていいのだろうか」と考えてしまいます。

でも、よく考えてみると、この問いを考えたとき、幸せな状況の中、現実の苦悩を前に苦しんでいる他の人が浮かぶのはなぜなのでしょう。「私だけ」というのは誰かと比較してのこと。私の中に人の幸せの度合いに対する物差しのようなものがあるのでしょうか。私の根底に流れる差別感が人の幸せを計りにかけて、個人の立ち位置を決めたうえで「私だけが幸せでよいのでしょうか」という問いが出たのかもしれない。

幸せに罪悪感をもつことは、相手の苦しみを理解し、痛みを分かち合う心なのですが、幸せになることはなにも悪いことではありません。また、「自分だけが幸せ」と、自分の立ち位置を決めてしまうと、かわいそうな人を作り上げ、見下ろす視点が生まれてしまいます。

今、インターネットの世界では膨大な情報が行き来し、人の人生を端的に、勝ち、負けで判断するような風潮があります。そして、負け組と判断された人を攻撃してみたり、一人ひとりの幸せ、不幸を計りにかけ、その軽重で人が差別される世界があります。また、素直に喜んだらねたまれる世界、苦悩を吐き出せば中傷される風潮もこのコロナ過の時期、顕著になっているような気がします。自分だけが幸せ、よい。悪い。という区別をしても、それは「今」だけのこと。未来はどのようになるのか、誰にもわかりません。私たちは常に喜びと悲しみを交互に味わいながら生きています。自分が幸せなときこそ、現実の苦悩に目を向け、相手を慮^{おも}る^ん気持^ばちをもちたいものです。そしてそれこそが、すべての者を救いたいと願われた阿弥陀さまの願いに叶う生きざまではないでしょうか。

問7 自分だけが幸せでよいのでしょうか。

連研中央講師・山口教区
熊谷 正信

皆さんは今幸せですか？あらためてご自身の現状を考えたとき「今、私は幸せです」と言える人もおられるでしょう。また「今、私は悩みを抱えていてとても幸せとは言えません」という方も少なからずおられるはずです。

私たちは、問1の話し合いにおいて、幸せについて話し合いました。話し合いを通じて、何を思われたでしょうか。普段私たちが感じる幸せは、私の思い通りになることを幸せと感じています。反対に思い通りに生きることができていないときは、悩んだり、怒ったり、悲しんだりしていないでしょうか。今幸せを感じている方は、おそらく自分の思うような生き方ができているのでしょうか。確かにすべてにおいて思い通りにいくことはありませんが、プラスマイナスで考えるとプラスの部分が多いから幸せと感じている人もいます。また反対に、マイナスが多いので、幸せと感じていない人もいます。いずれにせよ、ずっと幸せな人、ずっと不幸な人はいないでしょう。

「自分だけが幸せでよいのでしょうか」と聞かれると、おそらく自分さえ幸せであればいいと考える人はいないと思います。それは問1の話し合いの中でも、「健康や元気なことが幸せ」と並んで「孫や子どもなど家族の幸せが私の幸せです」と答える方やそれに共感される方が多いことから伺えます。自分にとって大切な人に、幸せでいて欲しいと願うのは私たちに共通する感覚だと思います。例えば自分は今幸せだと思っても、大切な誰かが悩みや苦しみ、悲しみの中にあつたなら、自分自身も心配になったり不安になったりするはずです。そうすると私自身は本当に幸せといえるのでしょうか。反対に自分がつらいときに家族や大切な人はどのように感じ、反応したでしょうか。また自分のつらさや悲しみに共感してもらうことで、励まされたこと、勇気づけられたこともあつたかもしれません。

では家族や大切な人が幸せであればいいのでしょうか。もしそうでないとするならば、地域が、国が、人間が幸せなら、と広がっていきます。私たち人間は幸せのために、現在の社会をつくりだしました。しかし幸せのためにと活動してきた結果、環境問題をはじめさまざまな問題に直面しています。つまり人間の幸せのために努力した結果、新たな問題を抱えるようになりました。幸せの追求が必ずしも幸せにつながっていないのかもしれませんが。ではどうすればよいのでしょうか。

私たちが考え、行動するとき何を物差しにするかといえば、世間の物差しではなくお念仏の物差し、つまり仏さまの物差しを基準にすることが大切だと思ひ

ます。

例えば、私はお悟りを開いて仏さまになることを「真実に幸せになる」と表現しています。阿弥陀さまが法蔵菩薩の時に誓われた48の願いは必ず「もし私が仏になるとき〇〇〇でなければ私は仏になりません」という形で誓われます。〇〇〇はそれぞれの願いですが、そのすべてを一つにまとめると第18番目の願い「もし私が仏になるとき、あなたがお浄土に生れて仏とならないのならば、私は仏になりません」になります。これを「もし私が真実に幸せになるとき、あなたが真実に幸せにならないのであれば、私も真実に幸せになりません」と訳すことができると思います。阿弥陀さまの「あなたの幸せが私の幸せ」と願い働いてくださっていることに気づいた私たちはどう考え、行動すればよいのでしょうか。

しかし、中には大きな悩みや悲しみの真ただ中であって、他の人のことを考えたり気遣ったりする余裕の無い方もおられるかもしれません。また、まずは自分が幸せを実感できなければ、他の人のことを考える余裕など無いという人もおられるでしょう。

仏典童話の中に、悩める王さまとお妃さまの話があります。王さまはお妃さまのことを大切に思いつつも、やはり自分が一番大切だと思うことに罪悪感を覚え、そのことをお妃さまに話します。するとお妃さまも同じように感じており、二人して自分の方が大切だと思うのは間違っているのではないかと思悩んでお釈迦さまに相談します。その時お釈迦さまは自分のことが一番大切なのは間違っていないけれども、他人も自分が一番大切だと思っているので、そのことを忘れないように、お互いを大切にしてくださいと言われました。

このテーマについて考えるとき、阿弥陀さまの願いと、このお釈迦さまの話は忘れてはならない視点だと思います。家庭や職場、地域社会の中で私はどのように考え、行動できるでしょうか。あらためて考えてみましょう。